

ブータン西部における土壁づくり歌「パチ (*pa tsi*)」の考察 ：作業・祝い・祈りの歌として

A Study on *pa tsi* (wall-making song) in Western Bhutan:
as a work-celebration-prayer song

黒 田 清 子

Kiyoko KURODA

はじめに

ここ10年程、ブータンの民俗音楽研究のため断続的にフィールドワークを続けてきた。首都であるティンブーでは人口集中が続き、ビルの建設ラッシュが続いているが、パロなどでは伝統的家屋がぼつんぼつんと建っていて、時折つくりかけの家屋の上で女性たちが棒で土を搗きながらわあわあ歌っているのを見かけた。土搗きの作業唄だと思い、興味をもったがなかなかその詳細を知れずにいた。コロナ禍となりブータンには行けなくなったが、長年の共同研究者であるツェワン・タシ氏 (Tshewang Tashi 王立大学パロ教育カレッジ講師) がソーシャル・メディア経由でブータンのいろいろな音楽風景の動画を次々と送ってくれた。その中にこの土壁づくり歌パチ (*pa tsi*) の動画が含まれていた。女性たちがテンポよく棒で土を搗きながら元気いっぱいに歌う姿を見て、民俗文化として歌が生きている様子に再度興味を覚えた。そこで今回、このパチについて調べてみることにした。本稿はフィールドワークでなく、オンラインによる聞き取りに基づく研究の試みでもある。Web会議サービスZoomやビデオ電話などを用いて断続的にツェワン・タシ氏とペマ・ウォンチュク氏 (Pema Wangchuk フリー

ガイド) に聞き取りを行った。

ブータンの住文化

ブータンでは住文化が充実している。間隔を置いて建つ伝統的家屋は、そのどれもが2, 3階建てと高く、間取りも広く重厚なつくりで存在感がある。1階の壁を石づくりし、木で柱や梁、屋根をつくる。壁は竹を編んで骨組みにし、その上に土を塗り固める版築造となっている。最終的に壁には四方の守護獣として虎・雪豹・ガルータ・龍 (*Tak Seng Chung Druk*) や魔除けとしての男根 (*pho*) や花などが描かれる。かつて1階は家畜の飼育に用いられ、2階以上の居住階が台所、居間、仏間などに区切られた。現在は1階も居住や物置に利用されている。どの家にも立派な仏間 (仏壇 *checham* のある部屋) があり、その壁は仏画、祭壇は仏具で埋めつくされ、ブータン仏教ならではの絢爛豪華な空間となっている。

このような伝統的家屋はパロ、ティンブー、ハ、ウォンディボダン、プナカなどにみられるブータン西部の文化である。

ブータンの「新築儀礼」

ブータンでは住文化が重視されている。



写真1, 2: プナカートンサ間ロントルの民家(左) 2階仏間(右) (南一誠「世界の伝統的建築構法 第2回 ブータンの伝統住居」『建材試験情報』建材試験センター2015年pp.20-25より)

「新築儀礼」といった言葉は特になく、完成時の儀礼はキング・トゥム (*khim dgi drup*) と呼ばれる。それでも新居建築の各段階で行われる儀礼は、ほかの人生儀礼よりも重視されており、そのはじめてからおわりまで様々な儀礼が盛大に執り行われる。このブータン人の住文化への志向を示すことわざがある。

boe ba gi tshong ga (チベット人は、金持ちになるほどビジネスをする)

Jaga gi ser ga (インド人は、金持ちになるほど金を(鼻や足に)つける)

drukpa gi sa ga (ブータン人は、金持ちになるほど家をつくって土地をたくさん買う)

新築儀礼については、馬場によるブムタン調査の詳細な報告がある(馬場1990: 44-59)。ここでは、全体が「1. 地固め」「2. 扉完成」「3. 窓枠完成」「4. 棟上げ」の順にまとめられ、各儀礼に親族、知人が招待され、ラマ僧による儀式、仮面舞踊 (*cham*)、歌踊り (*shabtra*)、会食などが行われる様子が描かれている。とくに「4. 棟上げ」儀礼におけるポー (*pho* 男根をかたどった木のもの) を上にあげる儀礼がメインイベントとされ、儀

礼と神話との関係、儀礼の創造にかかわる占星術師チパ (*tsipa*) や「説明する人」シェパチャミ (*shepachami*) の役割が考察されている。馬場の報告から全体の流れを以下にまとめる。

1. 地固めの儀礼 (*sachoe*): 占星術師チパ

が地面に線を引き、家を建てる場所を確定する。選ばれた干支の人が石を四隅に置く。中央に穴 (*yangbum* 吉祥なる穴) を掘る。四方に旗(東一白、西一赤、南一黄、北一緑)を建てる。

2. 扉完成の儀礼 (*Goraney*): 選ばれた干支の人が扉を立てる。

3. 窓枠完成の儀礼 (*Yohom*): 選ばれた干支の人が窓枠をつける。

(4の儀礼の準備のため早朝男女数人で山に木を伐り出しに行き、麺 (*tukpa*) を食べ、掛け合い歌 (*tsangmo*)、弓矢 (*da tse*)、石投げ (*degor*) などを行う。)

4. 棟上げの儀礼 (*Khimdub*): 選ばれた干支の人が屋根を取り付ける。この儀礼の主要

部分は、ゲトウ (*getu* 仮面舞踊チャムによる悪霊祓い)、テンデル (*tendrel* シェパチャミやポーを担いだ少女たち、ラマ僧の行進)、マルチャン (*marchan* 酒儀礼)、ポーを屋根



写真3, 4, 5: 地突き風景 (左上) 新家屋の中におけるラマ僧のブージャ (左下) シェパチャミの音頭取りによりポーを上げる (右) (馬場1990)

に上げる, ダルタニ (*dartani* 家主, 石工, 木工に祝儀を渡す), 会食の順序で, これらとは別進行でラマ僧による儀式が断続的に行われる。

各儀式に親族の知人の歓待, ラマ僧による儀式, 会食, 歌踊り, 家の神ラ (*lha*) を鎮める儀式 (*serkem*) が行われる。

聞き取りから捕捉すると, 家が建つまでに2, 3か月を要する。木材は森の警察 (*forest ranger*) に報告してから伐採しに行く。建築作業をするのはほとんどが近所からの手伝いで, ラマ僧やチャムの踊り手はその日に空いている人を知り合いに紹介してもらい来てもらうのだという。土地の所有や取得の詳細についてはわからなかったが, 西ブータンでは伝統的には財産は末娘により相続される。家や店も「(女性の名前) さんの家」と呼ばれる。

土壁づくり歌パチは, 「1. 地固めの儀礼」と「2. 扉完成の儀礼」の間に行われると思われるが, 馬場の報告には「地突き風景」という女性たちが棒で土を搗いている写真は掲載されているが, 本文ではとくに触れられていない。

土壁づくり歌パチをうたう人

パチ (*pa tsi*) は, 1階の石の基礎がつくられたあと, 2階の床, 壁部分の土を固める作業のはじまりとして儀礼的に歌われる。版築造の土壁は幅約60 cmと頑強で, 300年もつ家屋を支える部分のため, その作業は丁寧に時間をかけて行われる。占星術師チブ (*tsipa* チパと同意) によって儀礼的なパチを執り行う日時, どちらを向いて行うかの方角, 参加すべきしかるべき干支の人物などが決定される。パチを女性が行うことが多いのは, 土を



写真6, 7, 8: 土を入れる(左) 土をならす(右上), パチを歌いながら土を搗く(右下) (ツェワン・タシ氏の映像より。ツェワン2021)

運んだり均したりする他の作業は男性が行うことが多いための分業で、特に意味はないという。

パチの独唱部分を歌う主導者パチ・キニ (*pa tsi ki ni*. *pa* は「土壁」 *tsi* は「歌詞」 *ki ni* は「歌うこと」を意味する) もチプによって決定される。パチ・キニの条件は、パチを歌うことができるということもあるが、歌が上手であるとか声がいい人というわけではなく、チプに選ばれたしかるべき干支の人、両親共に健在な人、家をたくさん所有しているような豊かな人が選ばれる。ただし現在ではパチを歌える人の減少化・高齢化もあり、そこまではこだわらないという。パチ・キニの他に数人の女性が呼ばれ儀礼的なパチが歌われる。

祈りの歌としてのパチ

パチの冒頭と斉唱箇所で歌われる歌詞「オ

ムサラマニベメチェラフム *Om sa la ma ni ped may choe la hung*」はマントラ (真言) であり、ブータンの仏教で最もよく唱えられる「オム マニベメフム *Om ma ni ped mey hung*」と同意だという。これらのマントラを歌詞にもつ歌はたくさんあり、日常的に様々なものが歌われるという。

Lha drey mi sum choe lam chi (神様と悪魔と人間はもともと考えることは同じです)

人間が経文をただ言葉で唱えるよりも歌う方を好むし、楽しいと感じるように、神様 (*lha* 天界の神々) も歌の方を聴きたいし、喜ぶのだという。そのため、お経を唱えるマニ・ジャンニ (*mani jangni*) よりも、言葉に旋律をつけて歌うマニ・テンニ (*mani thenni*)

のほうがより高い功德を得られるという。マントラ、特に観音菩薩の真言オム（Om）は、一回唱えるだけで六道輪廻の中で生きて、苦しんでいるものの一切を救済できる最も簡潔で意味深い言葉だという。種々ある供物の中でも歌の供物ルイ・チャパ（*lue chopa*, *lue* は「歌」*chopa* は「供物」を意味する）が最も善いとされることについては以前報告した（黒田2016）。

冒頭のマントラ以外のパチの歌詞内容は、伝統的なものとしてはブータンを統一した初代シャブドゥン（シャブドゥン・ガワン・ナムゲル *zhabs drung ngag dbang nam rgyal* 1594-1651 チベット・ドゥク派の高僧でブータン最初の統一者であり政教両面の指導者）にまつわる内容が歌われる。これには二種あり、一つはチベットからシャブドゥンをどのように迎えたのかについて、もう一つは、シャブドゥンがプナカのゾン（*Dzong* 城砦）をどうようにつくったのかについての内容である。そのほか歌詞は多種多様で、祈りや祝福の言葉は、地域や歌い手により少しずつ異なるという。また、即興で歌詞をつくるパチ・キニもいる。

作業唄は祈りの歌でもある

パチを歌うのは、歌に合わせることで土を搗く共同作業がしやすく、新しい家が出来ることへの祝いの意味もあるが、そもそも土に関わる作業唄は祈りの歌も兼ねているという。土を搗く作業だけでなく、田んぼを耕す作業などでもその作業中、気がつかないうちに土中の生き物を殺してしまう可能性がある。そのためそのような作業の際に唄われる作業唄には、すべての祈りがこめられている。歌で祈りながらよい旋律で歌うと、神々も悪魔も喜ぶし、人々もパチを見ているだけで安心安全を感じ、その家にも災いが起こら

ないのだという。

また、とくに土に関わらない作業の場合でも、前節でマントラを歌詞にもつ歌が日常的に歌われると述べたように、「歌いながら作業をする」ことは、楽しくもなるし、祈りにもなるので、チベットでもブータンでも昔から行われている「普通の」ことであるという。

パチに関するオンライン・インタビュー

長年の共同研究者であるペマ・ウォンチュク氏（38歳男性・パロ出身・フリーガイド）にWeb会議サービスZoomを用いてパチに関するオンライン・インタビューを行った。

まず、子どもの頃から現在までのパチの経験や印象について聞いた。

「最近ではセメントやコンクリート製の家が増えたが、昔はほとんど土壁の家だった。小学生の時、学校が休みになると土壁をつくってる家へ手伝いに行った。13,14歳のときも、近所で建築中の家があると、土運びや壁づくりの手伝いをした経験がある。昨年も（パロの隣の）ハ県で寺院の修復があり、手伝いに行った。自分が所属しているアーチェリーのチームメンバーでハ県の村に行き、一日目はその村のチームとアーチェリー競技を行った。その次の日に土壁づくりの手伝いを一日行った。子どもの時はお菓子が買える程度のお金をもらったのでアルバイトみたいに、大人になってからはボランティアみたいに手伝いをした。」

ブータンでは近所・親類に何かあると、すぐに人が集まり手伝う習慣（*chaio bawa joni* 「手伝いに行く」）がある。近所へ10日間など手伝いに行くと、いずれ自分に何かあった時に手伝いに来てもらえるという相互扶助の考えがあり、新居建築にもすぐに人が集まると

いう。次に、儀礼的なパチの後に他の歌などを歌うのかについて聞いた。

「まず、パチは土壁つくりのはじまりの日としてすごく大切で、チパに占ってもらって日時や方角、主導者パチ・キニの干支など全部決めてから行う。パチ・キニもパチの独唱箇所(後述)が歌える人とか、どの干支の人かなど細かい条件の上で招待しているので、その人にパチを歌ってもらうことも大切。儀礼的なパチは歌い手により20, 30分でおわることもあるし、もっと長く歌う人もいる。それが終わったら帰るパチ・キニもいるし、ずっと歌う人もいる。儀礼的なパチの後は普通の歌、ブータンの古いベードラ (*boedra* 拍節をもつ歌) とか、アオサ (*ausa* 歩いている人に歌い掛ける歌) を歌って楽しんだりする。アオサはその辺を歩いてきた人に歌い掛け、歌で褒めることもあるし、侮辱することもある。侮辱された人は怒ってアオサで返事をするので掛け合いになっていく。そうやって作業も面白く、土壁つくり (*pa cham ni*) も歌って楽しみながら行うので、昨年自分も土壁つくりを手伝いにいったときも楽しかったとしか感じず疲れたという感じは全然なかった。」

土壁つくりの作業をしている人が歩いてきた人に歌い掛けるアオサに次のようなものがある。

dui chi namlo bape menna sa korey (今年は
もしかしたらカエル年かもしれません)
sakha bape gi gong sung no sa korey (道路
がカエルでいっぱいです)

このアオサは歩いてきた人の背が低く太っていることを「カエルみたい」と侮辱してい

る。歌い掛けられた人は壁の方を向いて次のような返事をする。

dui chi nam lo ola menna sa korey (今年は
もしかしたらカラス年かもしれません)
paakha ola gi gong sung no sa korey (壁の
上はカラスでいっぱいです)

壁の上で作業をしている人たちは「カラスのようにギャーギャーうるさい」という返事である。このように掛け合い歌の勝負が続く、その勝敗も重視される。昔はパチに歌のうまい人(当意即妙に歌で闘える人)が必要だった。アオサの返事ができず、歩いてきた人の方が勝つと縁起が悪く新築中の家に災いが起こると信じられている。そのため、家の所有者はすぐにその人を招待しご馳走して喜ばせようとする。それをしないと家内安全が保たれない。

シャブドゥンと各地の歌踊りジェイ・ジェムとの関連性

インタビューの最後にパチの歌詞内容、1637-38年シャブドゥンのプナカ・ゾン完成の祝賀の内容とブータンの各地の文化との関連性について聞いた。

「昔、群雄割拠でたくさん戦争をしていたブータンを初めて統一し、ゾンをたくさんつくり、国を平和にしてくれたシャブドゥンのことをブータンの人はものすごく尊敬している。1616年チベットから北のラヤにシャブドゥンがいらっしゃった時、ラヤの人たちがオレ (*auley* ラヤの男性たちにより陰暦9月に健康や幸福を祈り歌い踊られる民俗芸能) という特別の祝い歌で迎えた。シャブドゥンがガサに着いた時はゴエン・ジェ (*goen zhey* ガサのゴエンの男性たちが古代戦士の衣裳で

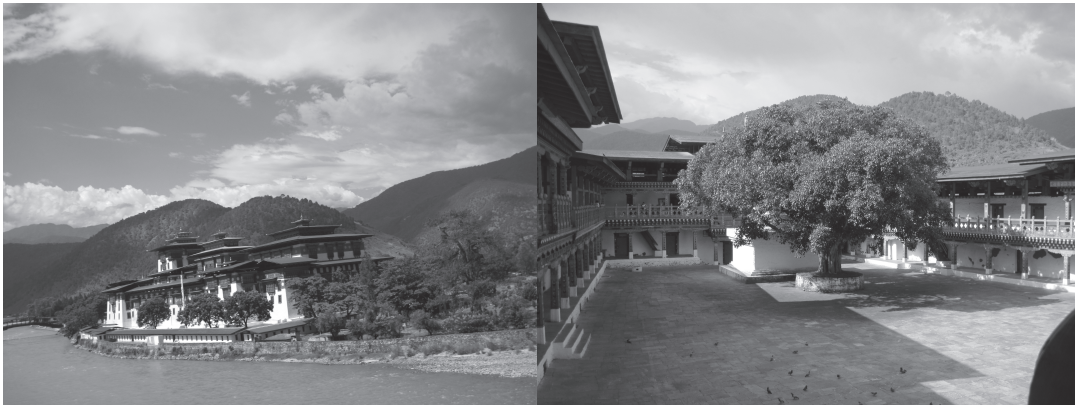


写真9, 10: プナカ・ゾン外景 (左) と内景 (右) (黒田2011)



写真11, 12, 13: ラヤのオレ (黒田2018) プナカのジェム (黒田2012) ハのジェイ (黒田2019)

踊る歌踊り。シャブドゥンを迎えた際捧げた、もしくはシャブドゥンによって創作されたとされ、すべてのジェイの中心とされる), ほかにもシャブドゥンを迎えた時の歌, 感謝をする歌であるジェイやジェム (*zhey zhem* 各地の歌踊り。ジェイは速いステップで, ジェムはゆったりとした手踊りで踊られる。いずれも17世紀シャブドゥンを迎えた際つくられたといわれ, 各地域で共通する歌や踊りがある) がある。それからシャブドゥンがプナカにいらっしやって, ゾンの土壁をつくる時にパチを歌い, シャブドゥンをチベットから迎えたお祝いとして, またゾンの安全祈願にお祈りとして歌った。そういった流れか

ら, 普通の人が家をつくるときのはじまりの祝い歌としてパチを歌うようになった。ブータンの中でもいろいろなお祝いがあるが, それらはすべてシャブドゥンがいらっしやってからつくったものなので, シャブドゥンに対してつくったものが多い。」

1637-38年のプナカ・ゾン完成の祝賀では, 各地域から人びとが集まりいろいろな歌や踊りが行われたとされるが, 元来ブータンの言葉は書記言語ではなかったためその詳細の記録はない。しかし, ブータンの人々はこのプナカ・ゾン完成の祝賀から現在も歌われるさまざまな祝いの歌がはじまったと信じてい

る。現在、17世紀シャブドゥンを迎えた際つくられたといわれ、各地域で共通するジェイ・ジェムとして知られているのは、ガサの *goen zhey*, テインブーの *wang zhey*, トンサの *nub zhey*, パロの *woochupai zhey*, そのほかラヤの *auley*, シヤの *locho*, ハの *bonghur zhey*, チュカの *miritsemoi zhey* がある (Chuanga Dorji 2018)。

今でもプナカ・ゾン完成から例年開催されるようになったツェチュ (*Tsechu* 「月の10日」) を意味する聖者グル・リンポチェを拝む宗教行事) や国王の結婚式や戴冠式などの祝賀の際に、各地のグループが集まりジェイ・ジェムを披露する。ペマ・ウォンチュク氏が考えるには、シャブドゥンが1616年チベットからラヤに入り、ガサを通り、1637-38年プナカ・ゾンを築城してブータンを統一したように、ラヤのグループがオレを披露しガサのグループがゴエン・ジェを披露し、プナカ・ゾンをつくった際のパチ、といった順番で歌い踊られるようになっていったのではないかということであった。

シャブドゥンについて歌われたパチの歌詞例

パチの伝統的な歌詞内容の一つであるチベットからシャブドゥンをどう迎えたかについての歌詞をツェワン・タシ氏とペマ・ウォンチュク氏に歌ってもらい、歌詞について聞きとりをした。歌詞は現在のブータン国語であるゾンカ (*Dzongkha*) に、仏教語ツェキ (*Chöke*, *Choekey* チョケとも) も含まれている。括弧内は解釈例である。

Om sa la ma ni ped mey choe la hung lo (オムサラマニペメチェラフムロ)

Pha lama nam la cha tsel lo (たくさんの方僧の皆様よろしくお願ひします)

Sung choe pa buel lo khencho sum (お坊さ

ん皆にこれから歌のお供えします)

Pha la mo ma due sa min du (えらいお坊さんは行ったことない場所はないでしょう)

Pha la mi zhabu la cha tsel lo (えらいお坊さんの足に五体投地します)

Pha la mi nga wang nam gyel dey (えらいお坊さんは誰かというガワン・ナムゲル (シャブドゥン) です)

Ku throng pa boe kham ye lo thung (生まれはチベットのカムで生まれました)

Chen zik pa lho cho di lu zik (目では、南 (ブータン) の方を見えています)

Boe kyo chung di shoy men (チベットに恩がないから (シャブドゥンは) 南にきたわけではない)

lho kha jey che di thop men (南 (ブータン) に運があったから (シャブドゥンは) いらっしゃったのではない)

Duel lho cho lu bap che ye ((シャブドゥン) 自身の前世からの予言で、南に行かなければいけなかったのだ)

歌詞の大意は、「シャブドゥン・ガワン・ナムゲルがブータンにいらっしゃったのは、チベットに縁がなかったからとか、チベットが悪かったからとかいうことではない。ブータンにいらっしゃったのは、ブータンのほうがよかったからとか、ブータンがラッキーだったからとかいうことでもない。それはシャブドゥン自身の前世からの予言でご縁がありブータンにくることになったのだ。」というものである。

パチの旋律例

冒頭 (旋律Aとした) 「Om sa la ma ni ped mey choe la hung lo」は、はじめパチ・キニの独唱で、次に全員の斉唱でと2回歌う。そ

旋律A(一回目のみ独唱・斉唱と二回歌う)

Om sa la ma - ni - ped mey choe la - hung lo

旋律B

o - lo - pha - la ma nam la - e - cha - tsel - lo
sung - choe pa buel lo - e - khen - cho - sum

旋律C例

旋律D例

旋律F例

楽譜：パチの旋律例。例えばA-Bを交互に十数回歌った後、C-D-D-C-D-E-E-E-E-F-F-Fが歌われて終了する。
(黒田2022)

のあと、パチ・キニによる独唱箇所（旋律B）と斉唱箇所（旋律A）を交互につづけるかたちとなる。独唱箇所が12, 13行分続けられた後はテンポもメロディも速くなり、最後は全員でくるくる円を描いて回り、盛り上がってジャンプして終了するが、その後半箇所の歌詞やメロディは各種あったため、旋律事例を示すことで詳細は省略した。土を搗く棒（*sathi*）は、はじめ強く搗くとその反動で棒が跳ね上がり弱く搗かれるタン（ンタン）タン（ンタン）となるがとくに決まりはない。

おわりに—民俗文化研究としてのひろがり

パチは、拍節的なリズムを伴い棒で土を搗く身体動作の面白さ、「オーンサーラーマニー…」と斉唱する楽しさからか、子どもたちが学校行事で披露していたり、映画のワンシーンで若い男女によって歌われたものが動

画共有プラットフォームYouTubeにいくつかアップロードされている。それらはブータンの「伝統」をあらわすものとして歌われており、作業・祝い・祈りの歌としての要素はほとんどみられない。

今回、新居建築の中でもとくに土壁づくりのはじまりに儀礼的に歌われるパチに注目して考察してきた。パチが作業・祝い・祈り歌、そのどれでもあるという、歌が多様な役割をもつことを確認できた。それだけでなく、マントラを歌詞にもつ歌を歌いながら作業をする作業・祈り歌が日常的に「普通に」存在していた。そこには歌が（神々にとっても、悪魔にとっても、人間にとっても）最も善い供物であるという共通認識がある。一方でアオサのように歌うことで勝負をし、その勝敗が縁起の善し悪しを左右するといった歌（その言葉）がもつ呪術性もみられた。特にペマ・

ウォンチュク氏とのインタビューから、最初の統一者となるシャブドゥンがチベットからブータンにきたこと、1637-38年プナカ・ゾンを完成させたという歴史的事実とそのことへの祝賀がパチだけでなく各地の歌踊りジェイ・ジェムに伝承されていることを知ることができた。

歌が多様な役割をもつといった歌の有り様は、古今東西、歴史を振り返ればしごく当たり前のことであるが、あまりにも現代日本社会、日本人が商業音楽など「聴くことを第一目的とした歌」ばかりにとらわれており、歌の多様な有り様を忘れてしまっているようにみえる。

文献・資料

- 黒田清子 2016「ブータン文化におけるあそび歌「ツァンモ *tsangmo*」の位置づけ—ジグミ・ドゥツパ氏へのインタビューをてがかりに—」『金城学院大学論集』人文科学編第12巻第2号 金城学院大学 pp.112-120
- 南一誠 2015「世界の伝統的建築構法 第2回ブータンの伝統住居」『建材試験情報』建材試験センター pp.20-25.
- 馬場雄司 1990「ブータンの新築儀礼」『民族藝術』第6巻 民族藝術学会 pp.44-59.
- Changa Dorji 2018 'Efforts Made To Preserve Bhutan's Unique Tradition Of Zhey' *dailybhutan*2018/11, <https://www.daily-bhutan.com/article/efforts-made-to-preserve-bhutan-s-unique-tradition-of-zhey>. (2019年6月1日閲覧)